

手塚太郎の会



手塚太郎の会と手塚区

ブラテヅカ

手塚自治会長 樋口 顕

地域には人が住み、それぞれ歴史があります。

そこでは、住民が地域の歴史を自発的に学び、親しみ、次世代に伝え、併せて地域の活性化に結び付ける様々な取り組みがなされています。

こうした中、住民有志が「郷土の誇り 手塚太郎金刺 光盛」に着目し、「手塚太郎の会」を設立して地域で幅の広い歴史学習活動が行われてきました。

以前、会の手塚地域探索に参加したことがあります。普段、何気なく通り過ぎてしまっているところ、先入観で「ここはこんなようなところ」、あるいは「たいしたところじゃないんじゃない」って思っていたところを会員の方の説明を聴きながらぶらぶら歩いていると、「へーそうだったんだ」、「知らなかった」という感動の連続、得した気分になったことを覚えています。何か「ブラタモリ」に似ており、まさしく「ブラテヅカ」（手塚地域と手塚太郎の両方を掛けている）になっている気がしました。

「自分が生まれて育った地域を学ぶことは大変貴重なこと」と思いました。

そこから、ふるさと（手塚）を大事にする気持ち、誇りに思う気持ち、愛する気持ちが生まれ、さらに見えない形で地域の活性化に繋がっていくものと思います。

これまでの「手塚太郎の会」の皆さんの長年の活動に深く感謝申し上げるとともに、これからも「感動を生む学習」が続いていくことを期待申し上げます。



木曾義仲

手塚太郎金刺 光盛と「手塚太郎の会」活動について

手塚太郎の会会長 市村 徹

手塚地区には古くから伝えられた数々の光盛の遺跡、伝説などが有り、区民の皆さんや地区内外の皆さんにご案内して、手塚氏の事や小泉小太郎伝説、地域の自然など沢山池を抱く水元の手塚区を広く皆様と学びたいと考えました。

平成 28 年 2 月に NHK で放送された「ファミリーヒストリー」で、漫画の神様と言われた鉄腕アトム of 作者「手塚 治虫」氏の長男眞氏が出た番組で、『先祖は木曾義仲と共に源平合戦に加わり、最期まで戦った「手塚の地、塩田平」の開発荘園主でもあった「手塚太郎金刺 光盛」です』という放送がありました。手塚眞(治虫)氏宅に残された系図と NHK の調べが一致し、現在も安楽寺に手塚治虫家の祖先の位牌(安政四年のもの)が安置されているという事実も判明し、治虫氏も手塚地区に訪れたことがあるという事も分かってきましたので、後日手塚公民館の文化祭に眞氏の講演を実施致しました。

早くから手塚氏のルーツを研究している「アトム of 会」代表の上原榮治・松原光昭両氏のご指導ご協力、また皆様にご参加頂きながら手塚の太郎の会を開催し、実在した光盛について詳しく研修する事が出来ました。

この冊子を手にとった皆様が、独鈷山をバックに手塚の雄大な自然の中で、この地に手塚太郎金刺 光盛が居り、“一時代を築いた事”を知って頂けたら幸いです。

※安楽寺に保管されていた手塚吉兵衛位牌にあった添え書きの内容は、「君姓金刺氏諱某為手塚太郎光盛後裔世居信濃手塚邑」(信濃手塚村に住む手塚吉兵衛は、金刺氏 手塚大郎光盛の後裔です)とあります。



樋口次郎兼光

手塚太郎金刺 光盛

篠原古戦場跡(加賀市手塚町) ※加賀市映像使用許諾済

手塚太郎金刺 光盛と手塚家系譜

手塚太郎金刺 光盛は諏訪大社下社の神官金刺氏大祝(おほうり=神職の最高位)の一族です。また、この時代婚姻により各家の結び付きを強固なものにするという観点から依田氏系統もひいており、上田市塩田の手塚郷の人です。遅くとも12世紀中頃には生をうけ、山梨県勝沼の三枝(さえぐさ)氏より妻を迎えています。

30年に渡り木曾義仲公を庇護支援しており、平氏打倒の戦「篠原の戦い」では、幼少期の義仲公の恩人でもある「齊藤實盛(さいとうさねもり)」とは知らずに討ち取ってしまいました(下写真)。平家物語の「實盛」の中で登場する光盛は、木曾義仲公最期に名前が登場するほど勇猛果敢な武将だったようです。寿永3年(1184)正月、近江栗津の戦いで、義仲公とともに討死しています。

手塚太郎金刺 光盛が先祖と口伝のある上田地域の手塚氏は、神畑手塚家、手塚治郎左衛門(旧八木沢村)、須川手塚家、下本郷手塚家などがあり、手塚氏が残した子孫は日本各地に散っていったものと思われま。漫画家の手塚治虫氏もこの一族です。

木曾義仲公が討たれた後、手塚氏は手塚姓を「横林」(他、多数の別姓あり)などに替えながら、乱世を生き抜いてきました。



民話「唐糸観音(唐糸と万寿姫)」

手塚の里に、手塚太郎金刺光盛という侍がおりました。光盛は木曾義仲公の重臣で、りっぱな侍です。その光盛に「唐糸の前」という美しい娘があつて鎌倉に召されていました。



寿永2年(今から凡そ830年前)の秋、源頼朝は京都に上がった木曾義仲のふるまいを怒り、これを討とうと図りました。

これを知った唐糸は、父の主君である義仲公に手紙を送りました。そこには「父光盛に信濃・越後の二国を賜れば、頼朝公を亡き者にします。木曾家に伝わる家宝の脇差を送って下さい」と書いてありました。しかし、この企ては失敗に終わり、唐糸は鎌倉山の石牢に入れられてしまいました。

手塚の里では60歳を超した祖母と、12歳になる万寿姫とで留守を守っていました。万寿姫は風の頼りに母唐糸が石牢に入っていることを聞き、鎌倉に至り八幡宮に祈願ののち頼朝の北の方に仕えました。

ある日、頼朝の祈願成就のために、舞“今様”の奉納が行われることになりました。舞姫の1人に加わった万寿姫は、その歌舞が見事なことで頼朝の目に留まり「今様の名手じゃ褒美を取らせよう」と言われましたが、万寿姫は褒美のかわりに「母の放免」を願い出ます。孝心に免じて唐糸は許され、信濃国手塚の里一万貫と、黄金、錦を賜り、五日後めでたく手塚の里に帰りました。(西塩田振興会・宝庫・西塩田の民話伝説参照)

民話「鞍が淵とたつの子太郎」

昔、独鉆山(とっこざん)のいただきに寺があり若い僧がお経を始めると、毎夜どこからともなく美しい娘がお経を聞きに通ってきました。不思議に思った僧はある夜、娘の着物のすそに糸のついた針を刺しておきました。夜が明けてみると、糸は戸の節穴を抜け鞍が淵まで続いていました。

見ると太蛇が赤児を産もうと苦しんでいました。娘は鞍が淵の主、太蛇の化身でした。太蛇は産まれた児を鞍岩の上に置き死んでしまいました。この川は産川(さんがわ)と名づけられ、太蛇の遺骨は蛇骨石(じゃこつい)となって散らばり現在も探すことができます。

産まれた児は小泉村の老婆に育てられ、小泉の小太郎と名付けられました。小太郎が14、5歳になった頃老婆に「婆のため少しは手助けをしておくれ」と言われ、小太郎は小泉山に出かけたきぎ取りをしました。

一日で山にある限りの萩の木を2抱えほどの束にして、夕方帰ってきました。そしてお婆さんに「この結び縄を解かないで一本ずつ抜いて焚きな。山中の萩の木だから」と言いました。

老婆は「よしよし」と答えたが腹の中で「一日仕事で山中の萩の木なんぞ取れるものか。こんな小束にまとまるものか」と、小バカにして小太郎の留守に結び縄を解いてしまいました。

すると萩はたちまち、はぜくり返って家一杯に広がり、老婆は萩に押し潰されて死んでしまいました。それから小泉山には、萩の木が一本も生えていないといわれています。

また、小太郎の子孫は長らくこの地に住んでいるが、横腹にへびの“こけら”のあとがあるといわれています。



産川で見つかる「蛇骨石」



鞍が淵：大きな石が鞍の姿に見えるので、鞍が淵と呼ばれています

手塚太郎金刺 光盛ってどんな人で、どんな時代??

塩田手塚出身であり、木曾義仲が平家を倒すために依田城（現上田市）で兵を挙げた時以来、義仲の側近として一緒に行動した手塚の開発領主。源氏の棟梁を決める治承寿永の乱で源頼朝に敗れ、平家物語に【…義仲ついに5騎となり巴御前を逃げさせ、そこで手塚別当落ちにけり…】とあり、手塚別当と光盛が義仲と最後まで戦った事が記されています。

手塚の里は平安時代末期の開発領主「手塚太郎金刺 光盛とその一族が居を構えていた土地」でしたが、源頼朝に田畑家屋敷を没収され、一族は手塚地区から須川等の地区に落ち延び、身分を隠すために手塚姓は名乗らずひっそりと暮らしました。落人となったため「手塚」の名前を出すことをはばかり、墓石には「手塚」の文字は書けない時代もありました。現在手塚区に“手塚姓”を名乗るお宅は一軒もありませんが、地区内には光盛の遺構が数多く残っています。

漫画家手塚治虫氏は手塚太郎金刺 光盛の末裔という事は知っていたらしく、手塚氏の筆による馬にまたがった武者姿の「手塚光盛でござるー」というセリフ付の作品が残っています。



手塚太郎金刺 光盛と手塚太郎の会

手塚の郷に、水を守り稲作や神社仏閣などを振興し地域を栄えさせた「手塚太郎金刺 光盛」という武将がおり、この地を治めていました。

光盛がこの地にいた年代は生年不詳～寿永3年(1184)で、居館跡など手塚地域に遺構が数多くあり、光盛が地域を大切に育み守っていた痕跡が残されています。

光盛は木曾義仲公の挙兵に伴い出兵し、近江粟津の戦いで義仲公と共に討ち死にしたと伝えられています。

この地で領地開発をした金刺一族が手塚に住んだので、手塚の地名から手塚太郎金刺光盛になりました。

当会は、手塚太郎金刺光盛を掘り起こし、手塚地籍を学ぶ事や、手塚氏のルーツを掘り下げ、各地域との交流を図っていきます。また、地域の水源である手塚地域の特性を紹介し、地元の活性化に寄与していきます。

- *ウォーキングを兼ねた手塚地域探索
- *講演会、勉強会の開催
- *手塚氏に関わる他地域との交流
- *民話の宝庫、塩田地籍の紹介
- *水源である手塚地域の紹介や勉強会
- *各諸団体との交流



木曾義仲

樋口次郎兼光

手塚太郎金刺 光盛

手塚太郎金刺 光盛の里を学ぶ

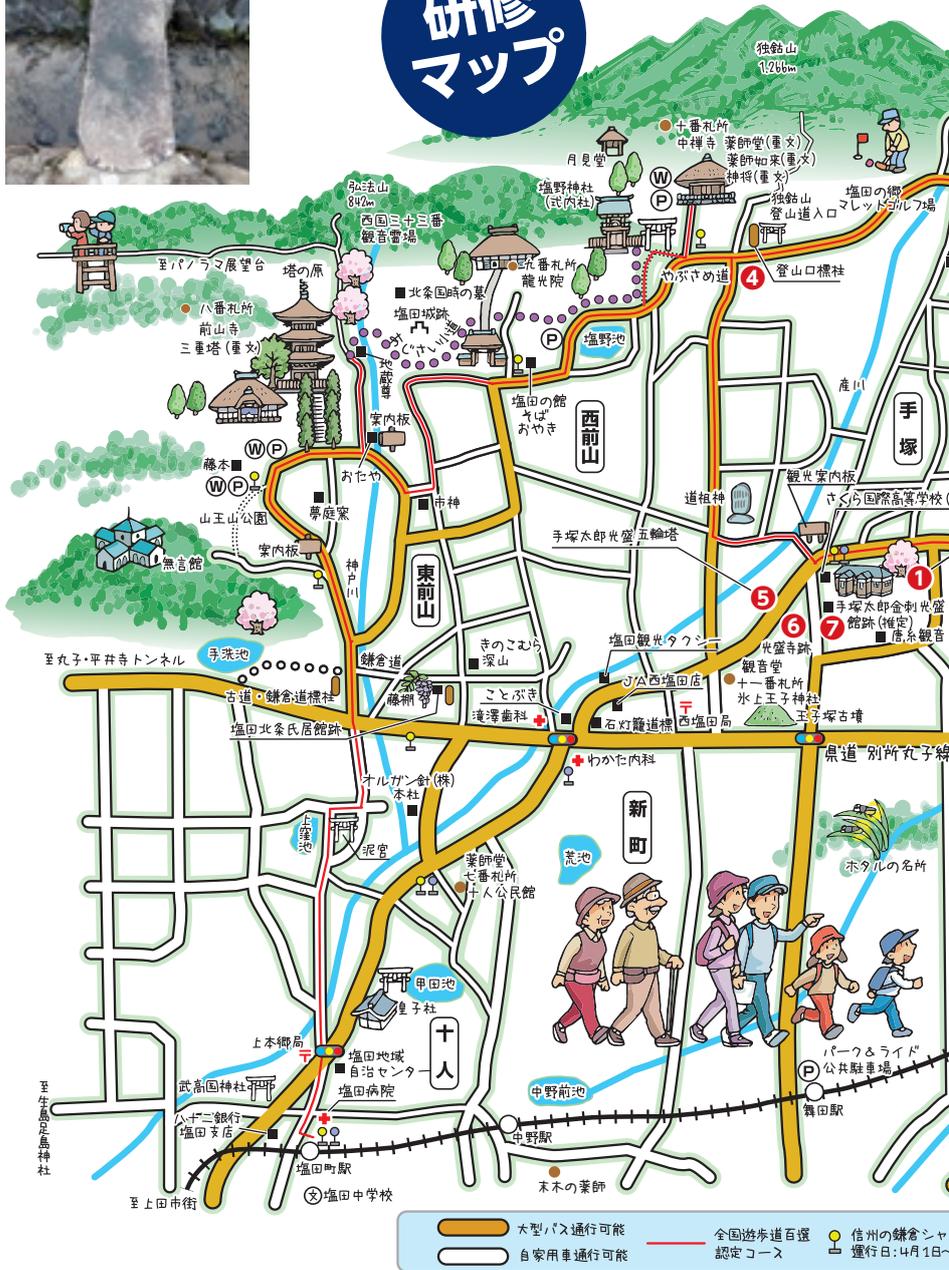
① 手塚太郎金刺 光盛 駒形橋

信濃が生んだ猛将・朝日將軍「木曾義仲」が依田城で兵を上げてから、越後の国の城資長(じょうすけなが)を向うにまわして出陣のおり、光盛も海野・祢津・円子(まるこ)氏らと手兵数十騎でこれに加わりました。出陣の朝、家族乳母らと別れの杯を交わし手兵らと武運長久を祈りました。軍神に祈願したとき「めりめり」と音がして、石橋に「ひずめ跡」が浮き出たではありませんか。「これは武運長久・幸運の兆しであろう」と大変喜びました。

橋は四尺あまり(1.2m)幅三尺(1m)、明治初年には2か所に有りましたが、その後、手塚堰口(せんげぐち)三の堰に使われていたのが一つ残っているだけになり、現在は、とっこ館前の用水路に案内板とともに架け替えられました。



研修 マップ



② 手塚氏の守り本尊 元木の地蔵

昔、弘法大師がこの塩田平の地を訪れた時、産川上流の元木の沢に有った柳の大木を見て「これは靈木である」として幹の根元の方で地蔵尊を彫ったという伝説があり、初めはその沢のほら穴に安置していました。延命地蔵菩薩で雨ごいにも大変ご利益があり、村民に厚く敬われていました。



根元の方で彫ったから「元木(もとき)の地蔵」、木の末の方で彫られたので「末木(すえき)の薬師」として、末木の薬師は、現在中野地域に祀られています。

その後光盛は、この元木の地蔵を手塚氏の守り本尊として手塚の堰口(せんげぐち)に応慈山光盛寺(おうじざんこうせい)を建て、岩山からこの寺に移しました。そして、光盛は木曾義仲公に従い京へ上がったのです。その後、守り本尊は東紺屋村のお堂に、明治2年には無量寺へ預けられ、現在はお堂ができ安置されています。

元木の地蔵は1mほどの高さで、脇侍として制多迦童子(せいたかどうじ)と金羯羅童子(こんがらどうじ)を従えています。

③ 民話小泉小太郎の生まれ故郷 鞍が淵(くらがふち)

昔、独鈷山(とっこざん)の頂きに寺がありました。若い僧がお経を始めると、毎夜どこからともなく美しい娘がお経を聞きに通ってきました。不思議に思った僧はある夜、娘の着物のすそに糸のついた針を刺しておきました。



夜が明けてみると、糸は戸の節穴を抜け鞍が淵まで続いています。見ると大蛇が、赤児を産もうと苦しんでいました。僧は驚いて寺に戻りました。娘は鞍が淵の主、大蛇の化身でした。大蛇は産まれた児を鞍岩の上に置き、己の姿を恥じて三日後に大雨を降らせ死んでしまいました。この川は産川(さんがわ)と名づけられ、大蛇の遺骨は蛇骨石(じゃこついし)となって散らばり、現在も探すことができます。

④ 流鏑馬(やぶさめ)の道・塩野神社前

現在の西前山公民館が建てられている場所は馬場(ばっば)という地名で、昔は馬術の訓練をした場所と考えられます。塩野神社の参道は東西に一直線で長さも200m余りで、流鏑馬の道として適当で、その両端には馬返し跡と考えられる地形も残っています。近くには数挾(やぶさめ)・西馬場という地名などが残り、手塚氏創建ではと思われる式内社「塩野神社」境内には流鏑馬の出発点となる鳥居があります。光盛の兄弟に、建久4年(1193)・文治2年(1187)鶴岡放生会流鏑馬で妙技披露した盛澄(せい)がいます。



塩野神社の鳥居が、西前山でなく手塚太郎光盛の住んでいた手塚に向かっていても、光盛が塩野神社を祀った事を意味していると思われる(手塚誌)。先の倭式騎馬会会長(森頭氏)の現地視察の折のコメントは、「見事に保存されている流鏑馬の道は、日本的に見て非常に貴重で類が無い」とお話されておりました。

光盛の里を学ぶウォーキングコースです。

- ①とっこ館前の駒形橋 ②手塚氏の守り本尊 元木の地蔵 ③小泉小太郎の生まれ故郷 鞍が淵 ④流鎗馬の道・塩野神社前と中禅寺
- ⑤手塚太郎金刺 光盛の五輪供養塔 ⑥光盛寺跡 ⑦手塚太郎の居館跡と伝えられる大城、唐糸観音堂・唐糸草子
- ⑧安楽寺に保存されていた手塚太郎の子孫 手塚吉兵衛の位牌



トルバス 11月30日 上電バス塩田線 信濃の国 塩田平札所めぐり

制作：西塩田地区振興会/観光部 '07.03 「上田市元気な地域づくり」助成事業

⑧ 安楽寺 手塚良仙光照が納めた手塚吉兵衛の位牌

安楽寺開山堂に安置された「手塚太郎金刺光盛の子孫」と伝えられる位牌に、「水戸 長沼侍医 手塚良仙光照」と書かれた厨子と古文書が判明、漫画家手塚治虫氏の家に残された古文書と一致しました。



光盛の子孫で手塚村に住む手塚吉兵衛は、天正年間(1573-1593)田中城主「芦田右衛門信蕃(のぶしげ)」に仕え、その後幕府「先手与力」に、晩年は手塚村に戻って寛永15年(1638)に亡くなっています。この吉兵衛の三男盛行の6代後の「光照」が、娘婿・良斎に吉兵衛の位牌を探させた結果「別所安楽禅寺」で発見。光照は安政4年(1857)に位牌を拝み、厨子を新調しました。この一連事を、孫の大槻徳裕が銅板に記しています。(お参りできない場合があります)

⑦ 手塚氏居館跡、唐糸観音堂唐糸草子

唐糸草子は、親孝行のお話で有名です。光盛の娘の唐糸を供養したと伝えられます。(宝永3年差出帖に光盛守り本尊と)中には唐糸観音堂があり、唐糸観音像が祀られています。

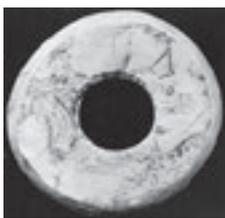
大城と呼ばれたここは、光盛の居館跡と伝えられています。この屋敷の中を通り、荘園時代の塩田平の殆どの流域に、産川の水を流したと考えられます。(中塩田、西塩田全地域へ)

入口の門は、明治初年のチャラ金騒動で訴訟団の焼き討ちに会い、今でもその傷跡が残ります。昭和16年(1941)頃までは、堅固の門と敷地約1000坪東・西・南の三方の石垣土塀・門が残されていました。個人所有のため非公開です。



中禅寺・薬師堂(重文)薬師如来台座の流鎗馬(やぶさめ)の絵について

国重要文化財の「中禅寺薬師堂」には、鎌倉時代初期の作とされる木造薬師如来像が鎮座しています。その台座である蓮華座は八弁の花を模った華盤というもので、花びらの形状に鎌倉時代の特徴をそなえています。



そして裏側には何とも興味深い、馬に乗り弓を射る流鎗馬の姿が描かれているのです。上敷茄子(うわしきなす)という上部の円形の蓋天板の裏側に、蓮華座を作った仏師が描いたのでしょうか。流鎗馬や鹿狩の様子をスケッチしたような墨絵です。まるで、落書きのような簡素な筆使いですが、その絵柄にも鎌倉時代の特徴が表れており、仏像の製作年代が推定されたのです。

⑤ 手塚太郎金刺 光盛五輪供養塔

光盛の供養塔と伝えられる、立派な五輪塔です。高さ1.25m室町末期から鎌倉初期の作と考えられます。手塚の個人宅の庭に有ります。



⑥ 手塚氏菩提寺 光盛寺跡

現在の手塚太郎金刺光盛の菩提寺と伝えられる光盛寺(こうせいじ)跡です。「手塚村光盛寺地蔵堂略縁起 正保3年(1646)弘法大師御作の地蔵尊(雨乞地蔵・元木の地蔵)を光盛が手塚村に講じ奉り、その家の本尊として恭敬し、光盛没後亡主追福のため堂舎を営み応慈山光盛寺(おうじざんこうせいじ)と号した」と記載があります。

光盛寺は廃寺になり、現在はその跡に菩提樹が立っています。本尊は昭和55年(1980)、手塚自治会によって無量寺境内に造られた地蔵堂に安置されています。



11月5日(日)

手塚の郷を歩こう

コース とっこ館→駒形橋→手塚家の菩提寺光盛寺跡→光盛の五輪供養塔→光盛の守り本尊元木の地蔵尊→流鎚馬道→中禅寺薬師如来台座の流鎚馬の絵→塩野神社



光盛居館跡・唐糸観音堂



手塚氏菩提寺 光盛寺跡



光盛 五輪供養塔

手塚の郷を歩こう

手塚の地名になった
手塚太郎金刺 光盛を学びながら

上田市南部の塩田平は、今から約850年程前塩田の庄があった所です。手塚の地名の基となった武将「手塚太郎金刺 光盛」があり、現在もその遺構が手塚のあちこちに散在し往時をしのばせております。

当会では、手塚太郎金刺 光盛を通して地域学習会を開催いたします。地域の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 平成29年11月5日(日) 午後1時～午後4時頃

研修内容 事前学習～現地研修8か所予定(4km程度)

集合場所 手塚公民館(新)

駐車場 旧手塚公民館をご使用ください。(新公民館まで徒歩1分)

注意事項 ●当日は現地研修ですので、歩きやすい服装や飲み物等ご用意ください。
●小学生は保護者同伴をお願いします。

連絡先 **手塚太郎の会**
会長 市村 徹 (TEL:0268-38-2244 携帯:090-1433-1723)
幹事 松原 光昭 (携帯:090-1762-7427)
池田 元子 (携帯:090-1403-4029)

参加費
無料

手塚太郎の会 概要

塩田平は今から850年程前塩田の庄があった所、開発領主の「手塚太郎金刺 光盛」の遺構が今でも手塚区内に多数残っており、ご案内勉強を兼ね区内を散策しました。初めての光盛関係でのご案内に、地元の方が多数参加され「えっ!!ここが…」という声も。中禅寺では建設当時の職人が描いたのではないかといわれている、薬師如来の流鎚馬の台座の絵を見せて頂き、何百年も前の物が目の前にある事に感激しました。

2月18日(日)

手塚太郎金刺 光盛の真実に迫る

講演 とっこ館／講師：稲垣勇一氏、西澤恒幸氏、上原榮治氏



塩田平の民話「小泉小太郎」を聞く



謡曲「實盛(さねもり)」に出てくる光盛を学ぶ



手塚一族の足どり

特別勉強会

手塚太郎金刺 光盛の真実に迫る

日頃から手塚太郎の会の活動にご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、当会では森川の流域の手塚太郎の里に伝わる民話小泉小太郎の話についてや、謡曲『實盛(さねもり)』に出てくる手塚太郎金刺 光盛などの勉強会を開催いたします。

地元伝承の民話から故郷の水の大切さを学び、手塚の郷の基となり木曾義仲と伴に戦った手塚太郎金刺 光盛を知り、手塚一族のルーツを探ります。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成30年2月18日(日) 午後1時～3時30分

場所 とっこ館(塩田の里交流館・駐車場有)

講師 塩田平の民話小泉小太郎を聞く
塩田平民話研究所 稲垣 勇一氏
謡曲『實盛(さねもり)』に出てくる光盛を学ぶ
塩田の歴史・文化を学ぶ集い 会長 西澤 恒幸氏
手塚一族の足どり
アトムの会 会長 上原 榮治氏

問合せ 手塚太郎の会 会長 市村 徹 (☎090-1433-1723)

参加費
無料

手塚太郎金刺 光盛(てづかのたろうかねさしのみつもり)って??どんな人なんだろう…!!
上田市手塚郷の領主で、諏訪大社下社の最高位の神職(大祝(おほねほり))だった人、木曾義仲が2歳の時に父が殺され、以来義仲を庇護して30年間運命を共にしてきました。

塩田平の水口にある手塚地区に関わる民話「小泉小太郎」のお話し、義仲が大恩ある斎藤實盛を討ち取ってしまった光盛の“謡曲實盛の実演”や、初めて聞くに近い地元領主光盛の勉強など盛りだくさんの講演が実施されました。たくさんの方々に興味を持たれ資料が足りなくなるほどの盛況ぶり、光盛を知る機会がほとんどない地元では、こんな人だったのだと知らない事ばかりで驚きました。

6月
24日(日)

ウォーキングと勉強会

コース とっこ館→駒形橋→光盛の守り本尊元木の地蔵尊→鞍が淵→流錫馬道

手塚太郎金刺 光盛の里
「ウォーキングと勉強会」開催

塩田の庄にあった手塚の里、平安時代の武将「手塚太郎金刺 光盛」の里のウォーキングを開催いたします。
水原豊かなこの地で生まれた「小泉小太郎の誕生の地、鞍が淵」まで足を延ばし、地元を学ぶ勉強会にしたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 平成30年6月24日(日) 午後1時～午後4時(予定)

研究内容 現地研修4ヶ所予定(約4km程度)、小雨決行

集合場所 とっこ館(塩田の里交流館・駐車場有 ☎0268-39-7250)

注意事項 ●当日は現地研修ですので、歩きやすい服装や雨具、飲み物等をご用意ください。

●小学生は保護者同伴をお願いいたします。

連絡先 手塚太郎の会

会長 市村 徹(携帯:090-1433-1723)

副会長 大口 高生(携帯:090-7202-6614)

副会長 池田 元子(携帯:090-1403-4029)

参加費
無料

今後の活動予定(当会にお問い合わせください)

■2018年11月11日(日) 手塚氏の歴史(仮称)

■2019年 2月17日(日) 手塚太郎の会講演会
義仲と光盛などについて(仮称)

光盛の足跡と、今も残る流錫馬の道、民話が生まれる手塚の里のご案内です。塩野神社から真っ直ぐに伸びる流錫馬道は今でも的が立ち、この状態で残っているのが奇跡だといわれ大切にしていきたい地域の財産です。また、馬の鞍の様な石組みの鞍が淵の下にとうとうと流れる産川、小泉小太郎を産んだ蛇の蛇骨石が今でも出てきます。清らかな水資源を大切に、米どころと言われる塩田の自然を守っていきましょう。



とっこ館 光盛駒形橋



民話「小泉小太郎」の生まれ故郷鞍が淵



流錫馬の道、塩野神社

11月
11日(日)

須川手塚氏の里を訪ねて勉強会

講演 須川公民館／講師：手塚義夫氏、上原榮治氏

手塚太郎金刺 光盛の里
「須川手塚氏の里を訪ねて勉強会」開催

手塚区から出た手塚氏が須川地区に居を構え、脈々と時間を紡いで来られました。今回は須川手塚氏の歴史も含め、須川地区での講演会と現地研修を行います。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 平成30年11月11日(日) 午後1時～午後4時(予定)現地研修

研究内容 1. 須川手塚氏について ■講師 アトムの会理事 手塚義夫氏
2. 手塚氏の歴史、真実は ■講師 アトムの会代表 上原榮治氏
3. 須川地区 現地研修

集合場所 須川公民館(現地集合、解散)※小牧線須川駅南口から10分須川地区に入る。

注意事項 ●近くに駐車場はありますが、乗り合わせをお願い申し上げます。
●当日は現地研修ですので、歩きやすい服装や雨具、飲み物等をご用意ください。
●小学生は保護者同伴をお願いいたします。

連絡先 手塚太郎の会

会長 市村 徹(携帯:090-1433-1723)

副会長 大口 高生(携帯:090-7202-6614)

副会長 池田 元子(携帯:090-1403-4029)

平成30年度上田市わかまち魅力アップ応援事業

参加費
無料

今後の活動予定(詳細は当会にお問い合わせください)

■2019年2月17日(日) 講演会:歌人・作家・元軽井沢町立図書館長 塩川治子氏

源頼朝に討たれた手塚氏は須川の地にも居を構え、手塚姓を名乗れず別性を名乗りながらも脈々と血筋を紡いで来られました。今回は須川手塚家の歴史を含め、須川地区での講演会と墓石に残る歴史を勉強しました。須川地区では、先祖供養のために毎年9月のお彼岸に、手塚氏・横林氏合同で先祖祭を催しています。



手塚氏が逃れた地、須川公民館



須川手塚氏について



須川手塚家の墓地勉強会

12
月 15
日(木)

木曾義仲と手塚太郎金刺 光盛の勉強会

場所 塩川治子邸

次年度の2月に塩川氏をお招きして講演会を開催するに当たり、塩川宅をご訪問させて頂き義仲と光盛の系譜や関係についてのスタッフ勉強会をさせて頂きました。丸子にある「義仲桜」を大切に育てているとおっしゃった塩川氏、義仲と光盛を知って頂き皆様が興味を持ってくださると嬉しいと優しい笑顔でおっしゃいました。



塩川邸の義仲桜の前で

2
月 17
日(日)

征夷大將軍・木曾義仲の生涯から学ぶ、手塚太郎金刺 光盛について

講演 手塚公民館／講師：稲垣勇一 氏・塩川治子 氏

手塚太郎金刺 光盛の里

「征夷大將軍・木曾義仲の生涯から学ぶ
手塚太郎金刺 光盛について」講演会開催

手塚太郎金刺 光盛が生涯をかけて行動を伴にした武将「木曾義仲公」を学ぶことで、手塚太郎金刺 光盛の活躍が学べます。講師は「木曾義仲の生涯」「旭のぼる」などの著者 元軽井沢図書館長、歴史民俗資料館長の塩川治子氏です。また、塩田の里を学ぶ「塩田平の民話」を稲垣勇一氏にお話ししていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

- 開催日時 平成31年2月17日(日) 午後1時～午後3時30分(予定)
- 民話 塩田平の民話「塩田平に残る西行のお話し」 稲垣勇一氏
- 講演 義仲の実像と手塚太郎金刺 光盛 塩川治子氏
- 会場 手塚公民館(駐車場あり、徒歩1分)
- 注意事項 ●防寒の手前です。服装や足元にご注意をお願いします。
●暖かい飲み物等をご用意ください。
●駐車場は【田手塚公民館】をご利用ください。のぼり旗が立っています。
●小学生以下は保護者同伴をお願いいたします。

連絡先 手塚太郎の会
会長 市村 徹(携帯:090-1433-1723)
副会長 大口 高生(携帯:090-7202-6614)
副会長 池田 元子(携帯:090-1403-4029)
平成30年度上田市わかまち魅力アップ応援事業

参加費
無料

次年度も研修会や現地研修会を実施したいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

手塚太郎の会 概要

手塚という地名の由来にも関与している人物「手塚太郎金刺 光盛」の活躍や歴史を学び、地元の宝を再認識する学習を重ねる。
また、水上の手塚に居住し多くの農地開発をした手塚太郎金刺 光盛にない、水資源の見学や史跡見学、あるいは地元を根付く民話や研修会などを通し「わが町(村)の魅力」を再発見して、地域の住民や地区外に魅力を発信していきたいという目的を持ち活動していきます。皆様の幅広いご参加をお待ちしております。

光盛を語る時、木曾義仲との関係が浮かんできます。木曾義仲がどのような人であり、どんな働きをして生き抜いたかという事を勉強したいと塩川治子氏を招き講演会を開催致しました。義仲の人物像や歴史的评价、なぜ人は義仲に魅かれるかなど、多方面からみた義仲と光盛のお話が聴けました。

塩田平には数々の民話があり、どの民話も地元密着のお話しばかりです。今回は有名な西行様のお話しを楽しく分かり易く聞かせて頂きました。



地区内外の方々にたくさん参加頂きました



西澤恒幸氏



塩田平の民話「塩田平に残る西行のお話し」



太郎の会、ハッピー紹介



義仲の実像と光盛



会長の手塚区講座

5月
12日(日)

手塚氏祖先から学ぶ

コース 安楽寺→八木沢八幡宮→法輪寺墓所

手塚太郎金刺 光盛の里

「手塚氏祖先から学ぶ 手塚太郎金刺 光盛について」
安楽寺・八木沢現地研修

手塚太郎金刺 光盛が木曾義仲と伴に戦いその後、光盛の子孫たちは各地で活躍しています。

信州の古刹別所安楽寺「国宝八角三重の塔」をガイド付きで学び、安楽寺に安置されている位牌「手塚治虫さんの先祖 手塚良仙光照 預」手塚邑に住む手塚太郎金刺 光盛の末裔と書かれたおりの内容について、住職にご照会いただきお話をいただきます。

八木沢の「八木沢天満宮」にある木曾義仲公の古碑、亀甲紋のなぞや、法輪寺にある手塚氏の子孫「小松治郎左衛門の墓」など、光盛関係各所の現地研修を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 令和元年(2019)5月12日(日) 午後1時~午後4時30分(予定)

集合場所 別所安楽寺駐車場(入り口上側) 乗り合わせをお願いします。

参加費 300円(保険、資料代金等)、安楽寺参観料金300円(自費)

コース予定 安楽寺(住職講和、位牌お参り、国宝三重の塔)~八木沢天満宮~法輪寺墓所

注意事項 ●上田市広報への掲載は都合により、今回の事業では行いません。●集合場所の安楽寺駐車場は、係員の指示に従ってください(入り口上側)。●足場の悪い場所も通りますので、服装や履物にご留意ください。●途中徒歩のため、飲み物をご持参ください。●害虫駆除のためのご用意をお願いします。●小学生以下は保護者同伴をお願いいたします。

連絡先 手塚太郎の会 会長 市村 徹(携帯:090-1433-1723)
副会長 大口 高生(携帯:090-7202-6614)
副会長 池田 元子(携帯:090-1403-4029)

平成31年度上田市わかまち魅力アップ応援事業

次年度も研修会や現地研修会を実施したいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

手塚太郎の会 概要

手塚治虫家(漫画家)の古文書がきっかけとなり、治虫家の祖先が光盛であるという位牌が安楽寺で見つかりました。これを機会にいろいろ調べてみると、八木沢の八幡宮や法輪寺山中に光盛と繋がると思われる遺構や墓石、近隣の末裔の方が探してくれていた遺構資料などが見つかり、皆様に知って頂く機会にしたいと計画致しました。山中にねむる墓石には、見た事がないような彫り物が施されており「すごい!!なぜここに??」と目を見張ります。



安楽寺住職が、手塚家の位牌が入っていた逗子に書かれていた古文書を読み解いてくれました



法輪寺兜山山中にある墓所の「くんだり富士亀甲紋」



塩田や近隣に残る手塚氏の末裔の話し

手塚治虫(漫画家)家位牌について

NHKの放映がきっかけで、手塚治虫家(漫画家)の祖先であり実際手塚区で暮らしていた手塚吉兵衛夫妻の位牌が安楽寺で見つかりました。安楽寺でも、それまでは由来の分からないままお預かりしていたとの事で、位牌が入っていた逗子内に由来が書かれました。

遠い遠い昔の光盛が、本当に居ただという実感がわいてきました。



位牌が入っていた逗子



逗子内部の由緒書き

位牌表面、水戸 長沼侍醫
手塚良仙光照 とあります

手塚吉兵衛夫妻の位牌

11
月
3
日(日)

木曾御嶽神社 武居宮司講演会

場所 手塚公民館 / 講師：武居哲也氏・上原榮治氏



武居宮司と木曾御嶽神社にて

手塚太郎金刺 光盛の里
信仰の山「御嶽山」
木曾御嶽神社武居宮司講演会
手塚太郎金刺 光盛の末裔 木曾御嶽山に!!

手塚太郎金刺光盛は地元でも「伝説の人、言い伝えられた人」と思われていましたが、当会で各地の史跡研修や下諏訪町博物館など見聞等を行う中で、しっかり足跡を残した実在の人物だった事が証明されました。

古事記「篠原の戦い」「謡曲實盛」義仲最期の粟津の戦い等に実像が描かれ、御伽草子「唐糸姫」など、たくさんの遺産を残してくれ地元「手塚」の名付け親ともいえます。地元で光盛子孫の方のお話を聴くよい機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時 令和元年(2019)11月3日(日)
午後1時~午後4時(受付 12時30分~)

開催場所 手塚公民館
(駐車場:旧手塚公民館跡地/係が誘導します)

内容 講演 木曾御嶽山里社25代宮司 武居 哲也氏が語る
「手塚太郎金刺 光盛と武居家」

サロントーク
●木曾御嶽社の歴史と御嶽信仰について 里社25代宮司 武居 哲也氏
●手塚氏の歴史 アトム会の代表・手塚太郎金刺 光盛研究家 上原 榮治氏
●手塚氏の末裔はどこへ(木曾義仲後、手塚氏の歴史と生きた証し)
●金刺光盛の史実について 手塚太郎の会会長 市村 徹氏

参加費 300円(資料代金等)



手塚氏の系譜を辿っていくうちに、木曾御嶽神社の宮司である武居家が光盛の末裔の家柄である事に辿り着きました。光盛が諏訪大社の大祝(おほほうり…最高位神主の家柄)の出身であることから、御嶽神社の宮司職なのかお話を伺ってみたいという事になりました。武居様の方でも源氏の血筋らしいがよく分らないという事で、武居家のルーツを調べたいと思っていたという事でした。手塚にも御嶽丸山講が受け継がれており、貴重な話を伺うことができました。



武居家と光盛・御嶽講社の歴史



上田市長も参加

サロントーク

木曾御嶽神社の宮司武居氏とアトムの会代表の上原氏、当会の会長市村がパネリストになりサロントークを開催しました。講演会内では聞けなかったちょっと踏み込んだ御家事情や手塚家としての歩み歴史など、参加者の方々の質問も受けながら武居宮司の今をお聞きしました。



サロントークのようす

12
月
11
日(水)

川西公民館「里山を歩く会」ご案内

コース 手塚公民館→駒形橋→手塚氏居館跡・唐糸観音堂→手塚氏菩提寺光盛寺跡→光盛五輪供養塔→手塚氏の守り本尊元木の地蔵→民話小泉小太郎の生まれ故郷鞍が淵→流錫馬道

川西公民館の中のサークルの一つ「里山を歩くのが趣味の会」様より連絡が入り、手塚太郎の事を勉強しながら区内を散策したいということでご案内を致しました。手塚区のことをよく知らないが「手塚太郎の会」という団体が、地元の啓蒙と活性化活動をしていると聞き申し込んでくれたとのことでした。歩くことが趣味の健脚ぞろいの皆様で歩幅が健康的、手塚太郎金刺 光盛も初めての勉強ということでたくさんの質問も出て楽しかったと好評でした。地区外の皆様との、よい交流になりました。



鞍が淵にて

以下の予定を計画しておりましたが、新型コロナウイルスが蔓延し、行政の指導のもと中止致しました。

手塚太郎の会 令和3年度 イベント案内(予定)

西塩田地域に手塚区があります。その地に、「手塚太郎金刺 光盛の里」があり、多くの光盛の史跡が残され語り繋がれて来ました。これらを多くの方々にも知って頂き、訪ねて一緒に学んで頂けたらと思います。お出かけください。お待ちしております。

また、日本遺産に指定された塩田平。水源の「鞍が淵」や龍の伝承、産川や竜王湧水、地域と史跡、伝承、おとぎ草子などにも学びの場所を得て学習案内をいたします。

第1回 令和3年6月20日(日)

午後1時から4時30分 手塚公民館
※塩田の領主「光盛の里」現地研修会
(地域ウォーキング)

第2回 令和3年10月24日(日)

午後1時から4時30分 手塚公民館
※齋藤別当實盛(さいとうべつとうさねもり)と、手塚太郎金刺 光盛(てづかたろうかなさし みつもり)の子孫が語る。講演会 1. 長井 敬二氏(齋藤別当實盛の子孫) 2. 道村 一彦氏(手塚太郎金刺 光盛の子孫)

10
月
18
日(日)

手塚公民館 「ふるさと学習」ガイド

コース 手塚公民館→駒形橋→手塚家の菩提寺光盛寺跡→光盛の五輪供養塔→光盛の守り本尊元木の地蔵尊



楽しく学ぶ手塚太郎



写真も使って、見えやすく



ほらほらこんな近くに、すごいものがあるんだよ!!

10月18日

ふるさと学習会のお知らせ

「ふるさと学習会」が今年度の日程で実施いたします。
ふるさと学習は、地域の歴史・文化・自然環境について学び、地域の発展に貢献することです。
ふるさと学習会では、地域の歴史・文化・自然環境について学び、地域の発展に貢献することです。

1. 日 時 令和3年10月18日(日) 午時 00-12:00まで

2. 場 所 手塚公民館 3. 対象者 (要予約あり)

4. 目 録 9:10 開会 - 始り
9:45 手塚公民館見学
11:00 手塚公民館見学
質疑(質問・回答)

5. 持ち物 筆記用具(鉛筆又はボールペン)、うす紙、筆記簿

6. 備 考 ふるさと学習会・親子、お茶の会など
お茶の会は、ふるさと学習会の参加者限定の参加費は、お茶の会にてスライド等による学習を行う場合があります。
お茶の会・ふるさと学習会は、お問い合わせください。

地元子ども達に手塚を学んでほしいという主旨で、手塚公民館が主催する「ふるさと学習」から手塚太郎金刺 光盛を学びたいとのガイド要請が来ました。当会としても、地元子ども達や若い保護者に「手塚太郎金刺 光盛のことを知ってほしい」ありがたい機会となりました。普段使う通学路や遊ぶ場所に、光盛が居た事を感じてほしい「光盛って誰??」の声に一生懸命応えました。

3
月
28
日(日)

レイラインガイド **場 所** 信濃国分寺

令和2年6月に認定された「上田日本遺産 太陽と大地の聖地～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～」事業の中の一つとして、台風で壊れた上田橋の鉄橋が修復し電車が開通した記念に、安楽寺と信濃国分寺の大日如来の御開帳が行われました。当会もレイラインの専門部員として、信濃国分寺のご案内に従事させて頂きました。また、上田駅に設置された「上田駅日本遺産ビジターセンター」でもご案内に従事させて頂き、レイラインや地域の良さをアピール致しました。



ご案内風景

4
月
9
日(金)

ゲートウェイ 信州上田城下町ガイド

コース 龍王湧水～皇子塚～手塚地区

ゲートウェイ信州上田城下町様から、龍王湧水中心に手塚区のガイドをしてほしいとの要請があり、春先の風が冷たい日でしたが実施しました。金井地区の入口から30分程度山の中に分け入った先に、大木に守られているような龍王湧水が現れました。守っているような大木の間を光の筋が通り、あまりに神秘的な雰囲気と言葉を失う程でした。



龍王湧水の案内板



榎(さわら)の大木の根元から源流が…。



こんこんと湧き出る龍王湧水



ご案内風景



龍王社前

11
月
6
日(土)

光盛の里 「ウォーキングと勉強会」

コース 手塚公民館 事前学習→手塚氏の守り本尊元木の地蔵→榛名山→不動池→舌喰池→駒形橋→手塚氏居館跡・唐糸観音堂～手塚氏菩提寺光盛寺跡→光盛五輪供養塔

**手塚太郎の金刺 光盛の里
「ウォーキングと勉強会」を
開催致しました。**

11月6日(土)午後1時から午後3時30分の予定で、25名ほどの皆様と手塚氏の里めぐりを致しました。晴天に恵まれ、手塚公民館で事前の学習をしてから現地に出発致しました。

手塚氏の守り本尊「元木の地蔵」(無量寺)～榛名山の脇から不動池の端を通り～舌喰池～とっこ館～手塚氏居館跡大城・唐糸観音堂～手塚氏菩提寺「光盛寺跡」～光盛五輪供養塔を巡るコースで実施致しました。

市村会長の説明に、「これは?」「ここは?」といった質問も出て、皆様の興味の深さが伺える良い勉強会になりました。

地元領主であった光盛の里を事前にプロジェクターを使っての学習をしてから、ウォーキングの中で細かくご案内をするという方法で、より深く地元を知って頂く機会になりました。参加者の中に「光盛の子孫と言われているけれど…」と話してくださる方がいて、手塚区には居ない光盛の面影が見えた気が致しました。



当会の副会長でもある大口自治会長挨拶



手塚氏の説明



元木の地蔵尊

手塚太郎の会 5年間の活動記録

※年度内期間は、4月～翌年3月までとする。

【1年目】平成29年(2017年4月)～平成30年(2018年3月) 8P

●定例会：6回 ●視察・研修：1回 ●他：3回

●イベント：2回

▶平成29年11月 5日(日) 講演会とウォーキング「手塚の郷を歩こう」

▶平成30年 2月18日(日) 講演会「手塚太郎金刺 光盛の真実に迫る」

【2年目】平成30年(2018年4月)～令和元(平成31)年(2019年3月) 9P～10P

●定例会：16回 ●視察・研修：5回 ●他：2回 ●パンフ作成 ●ハッピー・幟旗・備品配備

●イベント：3回

▶平成30年 6月24日(日) 講演会「手塚太郎金刺 光盛の里ウォーキングと勉強会」

▶平成30年11月11日(日) 講演会「須川手塚氏の里を訪ねて勉強会」

▶平成31年 2月17日(月) 講演会「征夷大將軍・木曾義仲の生涯から学ぶ手塚太郎金刺 光盛について」

【3年目】平成31年4月～令和元年5月(2019年4月)～令和2年(2020年3月) 12P

●定例会：13回 ●視察・研修：6回 ●他：3回 ●イベント：3回

▶令和元年 5月12日(月) 講演会「手塚氏祖先から学ぶ 手塚太郎金刺 光盛について」

現地研修「安楽寺・八木沢地域」

▶令和元年11月 3日(月) 講演会「信仰の山御嶽山」木曾御嶽神社武居宮司講演会

▶令和元年12月11日(水) ガイド「川西公民館里山を歩く会」

※新型コロナウイルスの蔓延により、感染防止のため以後のイベントは中止とした。

【4年目】令和2年(2020年4月)～令和3年(2021年3月) 13P

※新型コロナウイルスの蔓延により、感染防止のため自粛し以下のイベントは中止とした。

×▶令和2年 6月20日(日) 現地研修「手塚の領主 手塚太郎金刺 光盛の里をウォーキング」

×▶令和2年10月24日(日) 講演会「斎藤別当實盛と手塚太郎金刺 光盛の子孫が語る」

×冊子の刊行

※新型コロナウイルス感染に留意して開催

●定例会：6回 ●視察・研修：4回 ●他：2回 ●イベント：2回

▶令和2年10月18日(日) 手塚公民館主催「ふるさと学習会」

▶令和3年 3月28日(日) レイラインガイド「信濃国分寺」

【5年目】令和3年(2021年4月)～令和4年(2022年3月) 14P

※新型コロナウイルスの蔓延により、感染防止のため自粛し以下のイベントは延期や中止とした。

×▶令和3年 6月20日(日) 現地研修「手塚太郎金刺 光盛の里をウォーキング」

×▶令和4年 3月13日(日) 「安楽寺の手塚吉兵衛の位牌と手塚氏」(仮題)

※新型コロナウイルスの感染予防体制を行い開催した。

●定例会：8回 ●視察・研修：2回 ●他：5回 ●イベント：2回

▶令和3年 4月 9日(金) ゲートウェイ信州上田城下町レイラインガイド

▶令和3年11月 6日(土) ウォーキングと勉強会「手塚太郎金刺 光盛の里を学ぶ」



編集後記

手塚区の公民館活動から端を発し、地元開発領主手塚太郎金刺 光盛の学ぶ場を作ってほしいとの皆様の声を頂いて当会が発足致しました。知っているようで知らなかった光盛を中心に、手塚氏のことや地域のことの勉強を重ねて参りました。また、塩田平の水口である手塚区の話し、地元に関わる民話など、多方面の方々のお力をお借りして皆様と共に歩んでいくことができました。

光盛の子孫の方と實盛の子孫の方との対談をしてほしい。手塚の里めぐりのウォーキングも実施してほしい。安楽寺の手塚治虫家の祖先の位牌を巡る勉強会を開催してほしい。等様々な要望を皆様から頂いております。今後の活動の中で、幅広く実施し継続していく所存です。皆様の参加をお待ちしております。

手塚太郎の会

<https://tezuka-taro.net>

〒386-1433 長野県上田市手塚952

会長 市村 徹 ☎090-1433-1723

令和3年度上田市わがまち魅力アップ応援事業

